教育委員会提出議案

第2号議案

豊島区文化財の指定について

上記の議案を提出する。

令和6年1月9日

豊島区教育委員会教育長 金子 智雄

豊島区文化財の指定について

豊島区文化財の指定について、次のとおり決定する。

1. 根拠法令

豊島区文化財保護条例第23条第1項第1号による

- 2. 審議事項
 - (1) 豊島区文化財の指定
 - ①豊島区登録有形文化財(建造物) 婦人之友社社屋 1棟
- 3. 指定の理由

別紙「答申書(写)」の通り

(説 明)

豊島区文化財保護条例第 23 条第1項第1号の規定により、豊島区文化財保護審議会に、文化財の指定について諮問したところ、別紙のような答申を得た。

よって豊島区文化財保護条例第5条の規定により文化財を指定するため、本案を提出する。

答 申 書



豊島区文化財保護審議会

豊島区教育委員会 様

豊島区文化財保護審議会 会 長 菊池 徹夫

豊島区文化財の指定について (答申)

令和5年7月25日付、5豊教庶発第992号をもって諮問がありました、豊島区文化財の指定について、豊島区文化財保護審議会において、令和5年9月5日と同年12月22日の2回にわたり審議を行った結果、下記の通り意見が一致したので答申します。

記

1. 指定件名

(1) 有形文化財(建造物)

名 称 婦人之友社社屋

1棟

所有者 株式会社婦人之友社

このことについて、諮問のとおり指定することに異議ありません。

有形文化財

- 1. 名 称 婦人之友社社屋
- 2. 員 数 1棟
- 3. 指定種別 豊島区指定有形文化財(建造物)
- 4. 所 在 地 豊島区西池袋 2-20-16
- 5. 所有者 株式会社婦人之友社 豊島区西池袋 2-20-16
- 6. 指定基準 豊島区文化財登録・指定基準 第2 豊島区指定文化財 「豊島区登録文化財のうち、区にとって特に重要なもの」

(参考)登録基準 豊島区文化財登録・指定基準 第1 豊島区登録文化財 1豊島区登録 有形文化財(1)建造物「ア 区の歴史又は地域的特色において重要な もの」、「イ 意匠的又は技術的に優れているもの」および「ウ 歴史的 又は学術的に価値があるもの」に該当する。

7. 指定理由 本建物は、隣接する自由学園(現自由学園明日館)を創設し、その校舎の設計をフランク・ロイド・ライトに依頼した羽仁吉一・もと子夫妻が、明治36(1903)年に創業した婦人之友社の社屋で、昭和38(1963)年に創業60年を記念して、大明建設の施工で建てられ、現在も社屋として使用されている。

設計を担当した遠藤楽 (1927~2003) は、ライトの弟子、遠藤新の次男で、昭和24 (1949) 年に遠藤新建築創作所に入社。昭和32 (1957) 年に渡米し、アメリカで直接ライトの指導を受けている。作品として、自由学園羽仁両先生記念図書館 [昭和41 (1966) 年・東久留米市] や自由学園六十周年記念講堂 [昭和56 (1981) 年・東久留米市]、滝野川教会 [平成3 (1991) 年・北区] などがあり、個人住宅・店舗建築などの設計も多い。

この婦人之友社社屋は、令和4(2022)年9月27日に、豊島区有形文 化財に登録され、同年11月より翌年3月まで、本建物の文化財としての 価値を評価するため、詳細な建造物調査を実施した。

建物は、鉄筋コンクリート造、地上3階、地下1階、陸屋根で、事務 所部分・会議室部分・倉庫部分(増築部分を含む)からなる。

事務所部分は、4本のL字型柱に支えられた片持ち構造の部分と、階段室やトイレを含む壁構造のコア部分で構成される。会議室部分は事務所部分の西側に建つ鉄筋コンクリート造の平屋建て、倉庫部分は、事務

所部分の南に発送室で接した鉄筋コンクリート造の陸屋根の建物で、昭和45(1970)年に木造平屋建ての切妻屋根部分が増築されている。

遠藤楽は、本建物を設計するに際して、明日館講堂 [昭和2 (1927)年]と、友の会友の家 [昭和37 (1962)年・平成19 (2007)年解体]と一体的にデザインすることを意識しており、師・ライト、父・新の建築思想に基づいたデザインが見られる。

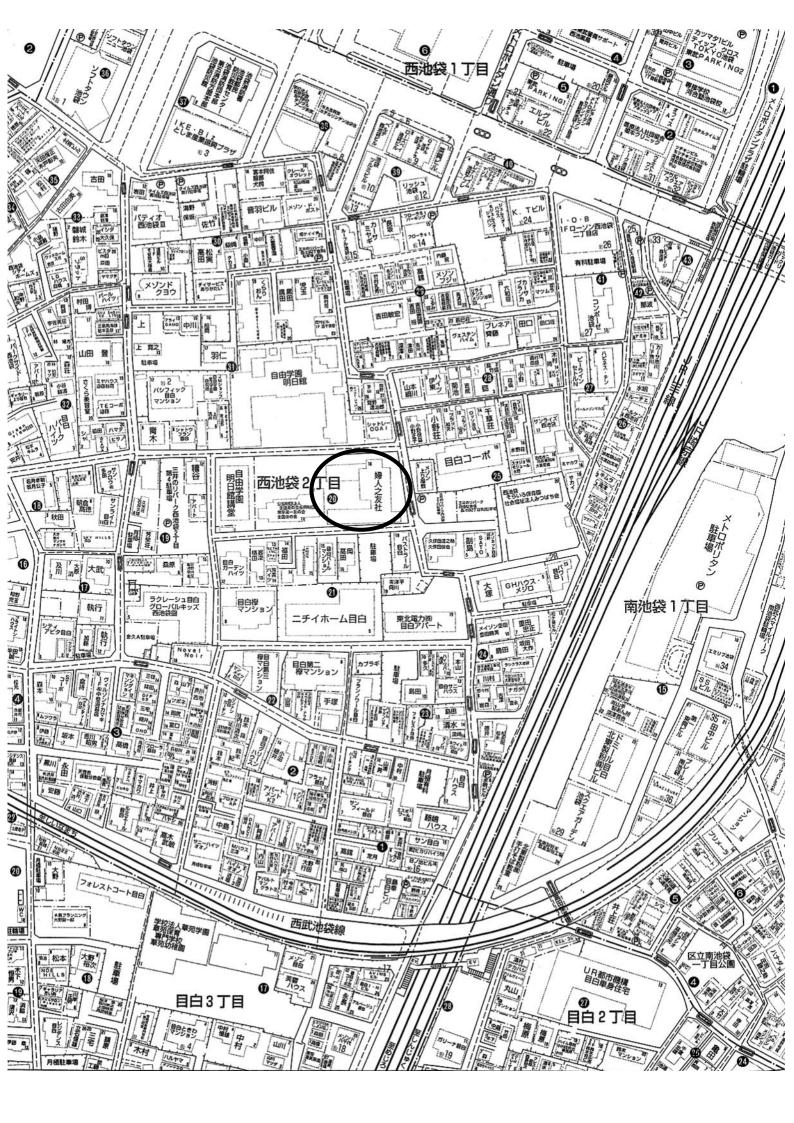
たとえば、会議室部分の外観は、屋根勾配を低くして庇を広くとった水平方向を強調したデザインで、道を隔てた明日館の外観との統一性が見られ、内部の、天井高を2m程度に抑えた応接室から3mを超える天井の会議室に入るという開放的な印象を持たせる演出は、明日館の中央ホールを思わせる。また、玄関回りの植栽や腰壁、玄関内部や会議室の装飾に大谷石が使用されている点、倉庫部分の発送室の屋根を明日館に似せた緑青色の亜鉛引鋼板瓦棒葺きとしている点など、ライト建築の特徴が取り入れられている。一方、増築された倉庫部分には、新が好んで使用した「三枚下ろし」の構造を見ることができる。家具や照明についても、ライトや新同様、建物に合わせてデザインされ、照明器具・椅子・ソファ・テーブルなどは、現在も使用されている。

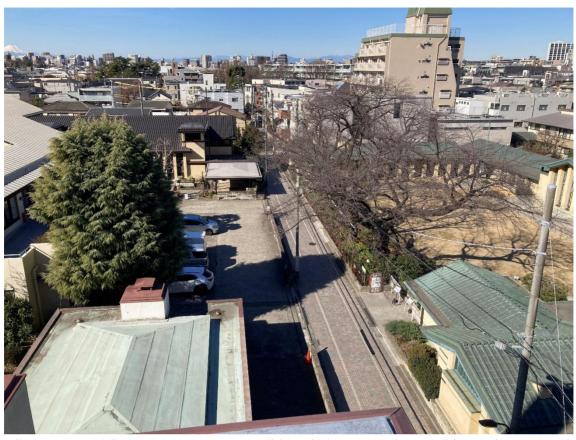
改修は、外部については、屋上塔屋の文字看板の撤去や、ごく一部に建具の変更も見られるが、大きな改修は実施されてない。内部についても、階段室の手摺りの設置や1階玄関のスロープ設置などのバリアフリー化、1階事務室床のOA対応化などの他、若干の動線の変更を行っているものの、基本的には建築当初の形が良好に残されている。また、ロッカーや作り付けの棚、スチールサッシ、洗面所・現像室の水回りのタイルなどは当初のものが残されている。

なお、建造物調査に先行して、遠藤楽建築創作所を継いだ甥の遠藤現 建築創作所の調査も実施され、基本構想から実施設計に至るスケッチ・ 図面・模型の存在が判明した。とくに楽自筆の実施設計図面がほぼ完全 な形で揃っているのが確認され、今後の保存事業に資すると思われる。

以上のように、婦人之友社社屋は、戦後の建築であるが、隣接する自由学園明日館を設計したライトの系譜を引く設計者によるものであり、 平面構成や意匠にライトの思想・手法が継承されている建物である。また、親子で世界的建築家と師弟関係にあった設計者の建物と、師の手による建物とが隣接しており、これら一群の建物を保存する意義は大きく、婦人之友社社屋を、保存・活用すべき豊島区の特に重要な文化財と して指定することが適当である。

> 遠藤楽「婦人之友社」『建築』(1963) 青銅社 遠藤楽「設計者のことば」『婦人之友』(1963) 婦人之友社 遠藤楽作品集編集委員会『楽しく建てる-建築家遠藤楽作品集-』 (2007) 丸善株式会社





敷地周辺 婦人之友社敷地の西方向を社屋屋上より見る。道路右手が自由学園明日館、奥に明日館講堂、左手が友の会 "友の家"がある。自由学園、友の会、婦人之友社の三団体がこの土地で一体となり発展してきた。



建物外観 婦人之友社社屋を南東より見る。手前は倉庫棟。3階建て部分が事務所棟。壁の多い倉庫棟と軽快な意匠の事務所棟が対 比している。



建物外観 北東より見る。事務所棟はガラスと白いリシンの腰壁部分で水平を強調している。右手の茶褐色のタイル張り部分は階段室、便所などがあり、構造のコアになっている。



建物外観 婦人之友社玄関。大谷石を要所に使用し自由学園明日館との調和を計っている。



建物内観 会議室1 正面に暖炉があり、家庭の居間とも言っていい会議室。設計者の意図が空間に表現されている。



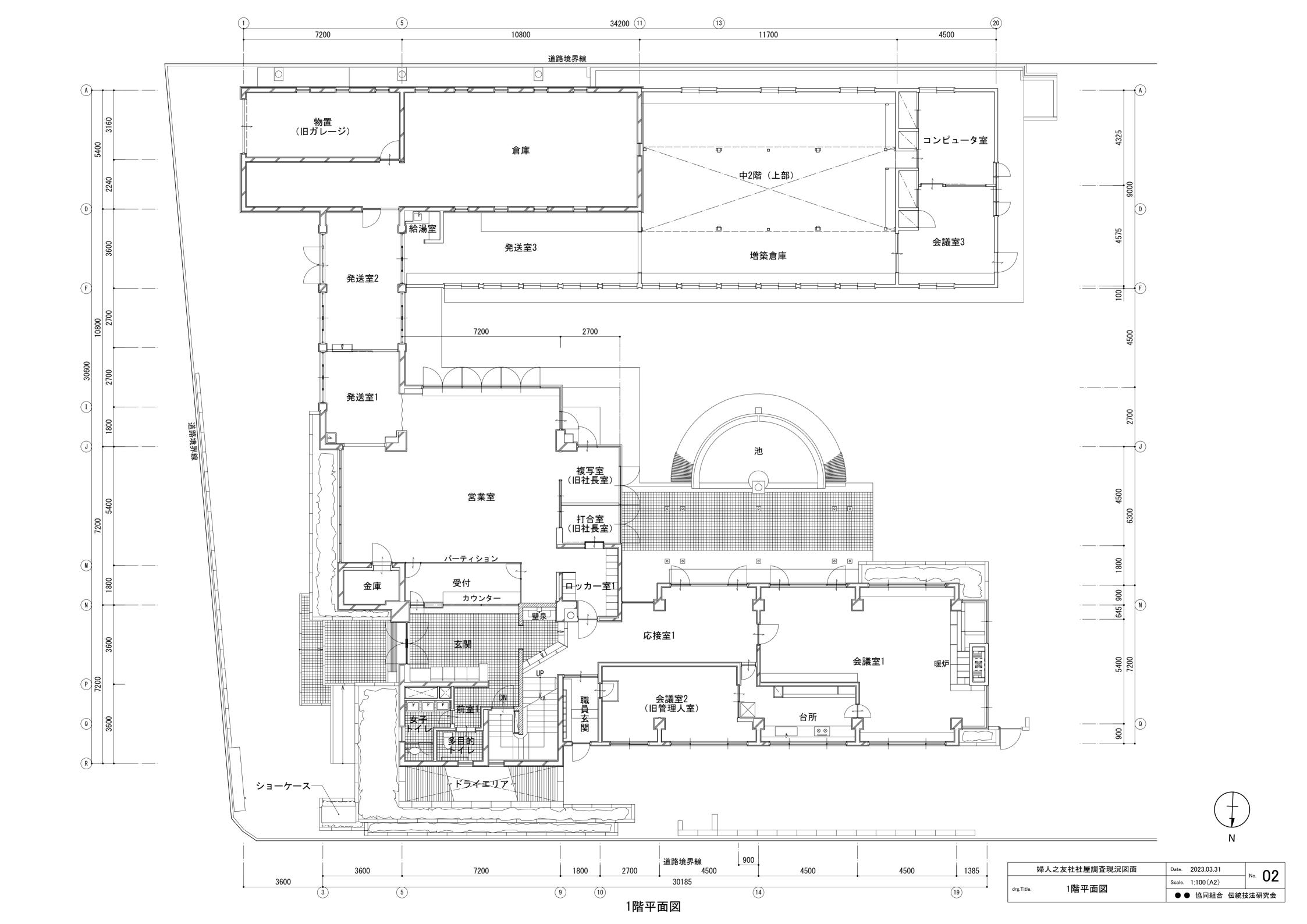
建物内観 会議室1 左手に台所があり、右手に池が見えるダイニングテーブルの会議コーナーがある。

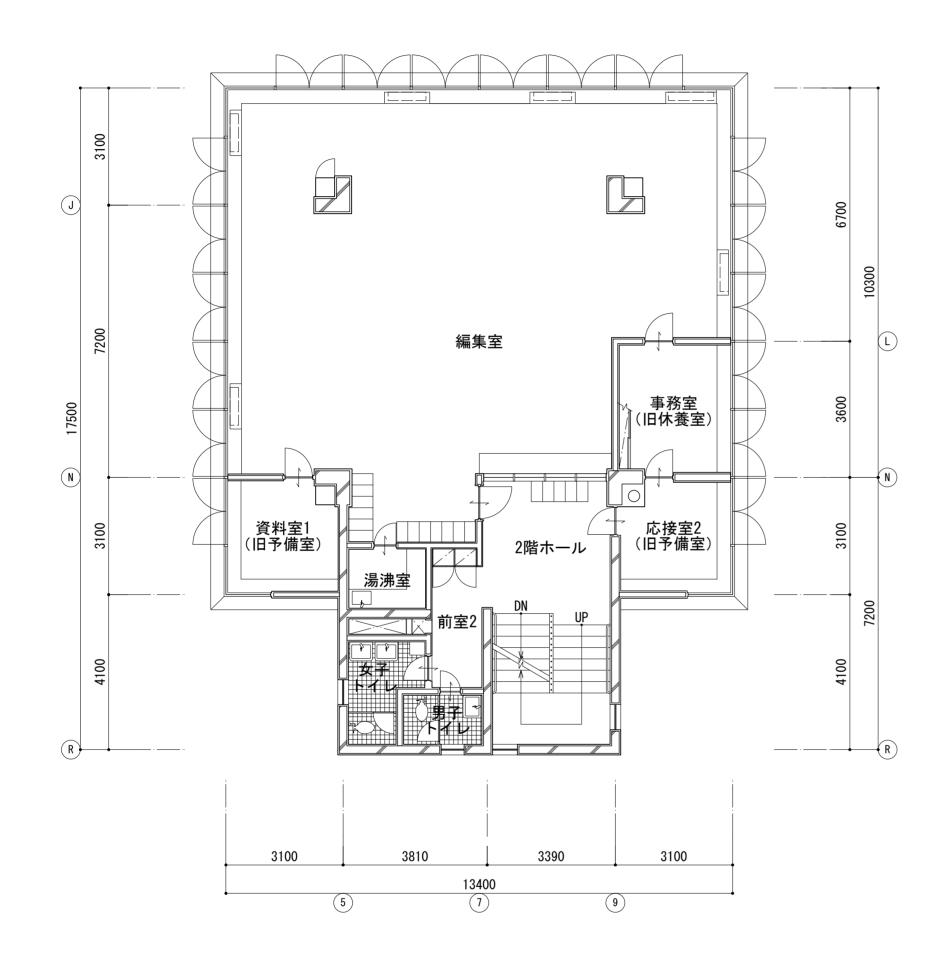


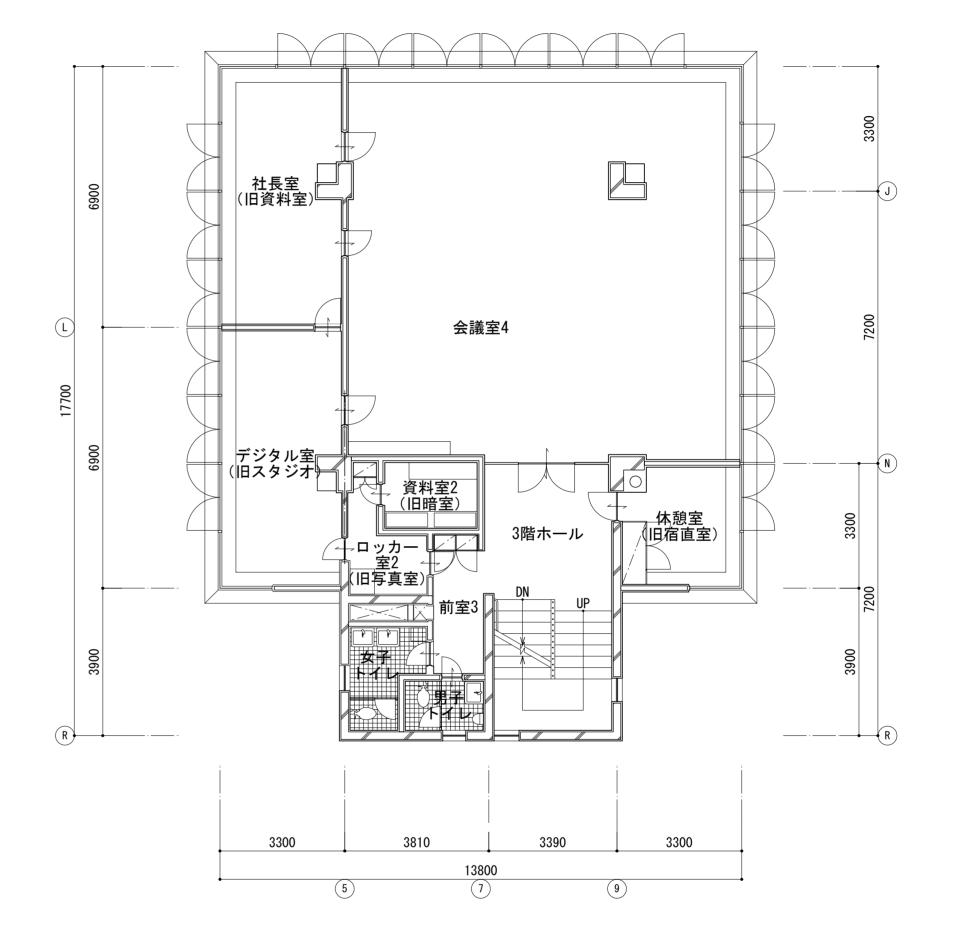
建物内観 2階編集室 3方向が開口部で、極めて明るい。



建物内観 3階会議室 空間は広く、2方向に眺望が開いており、解放的である。



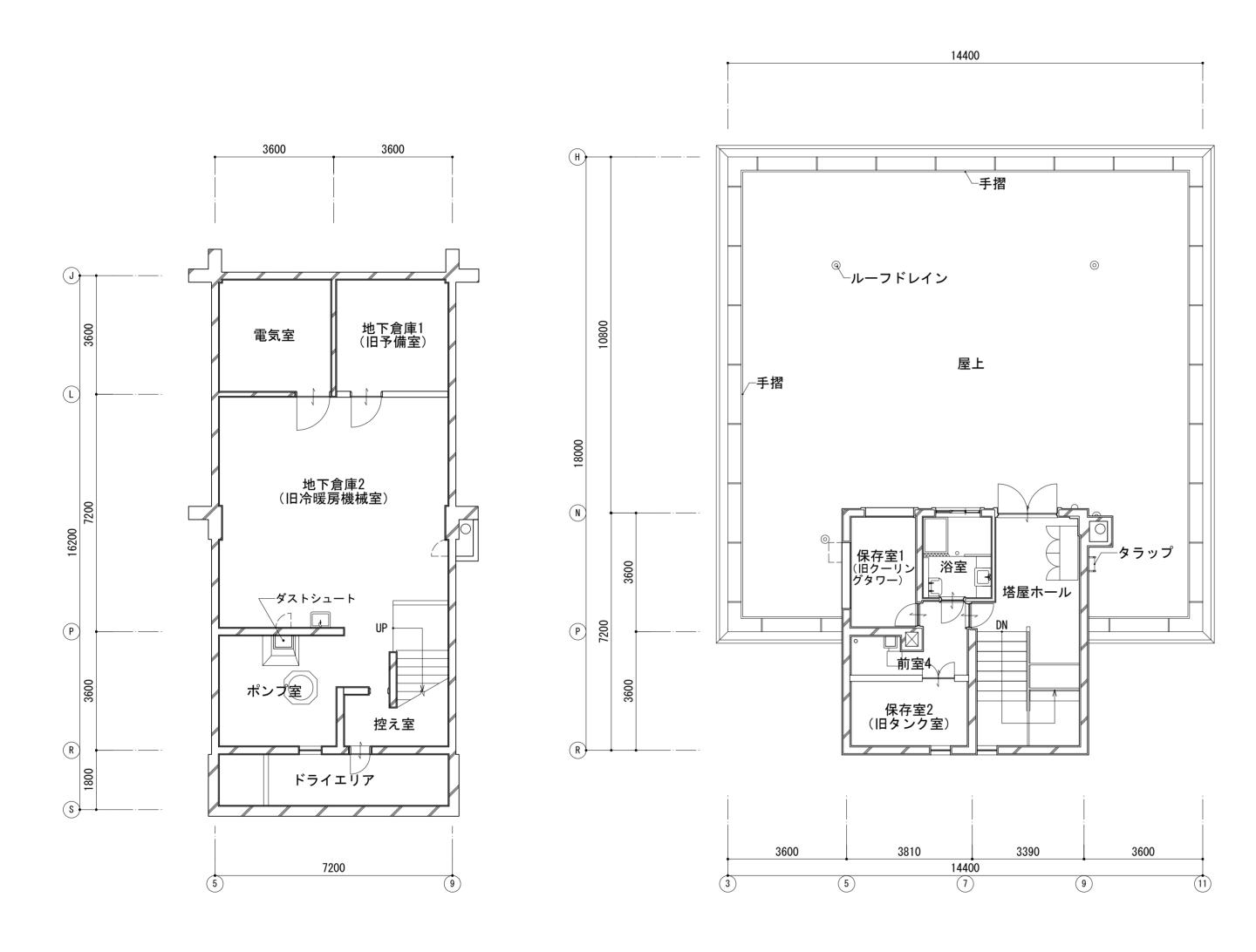


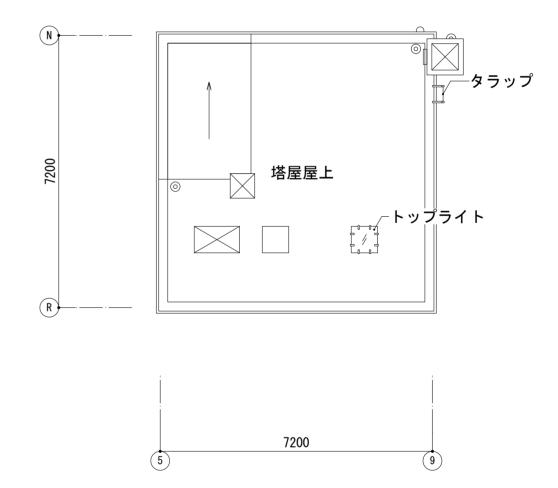


2階平面図 3階平面図



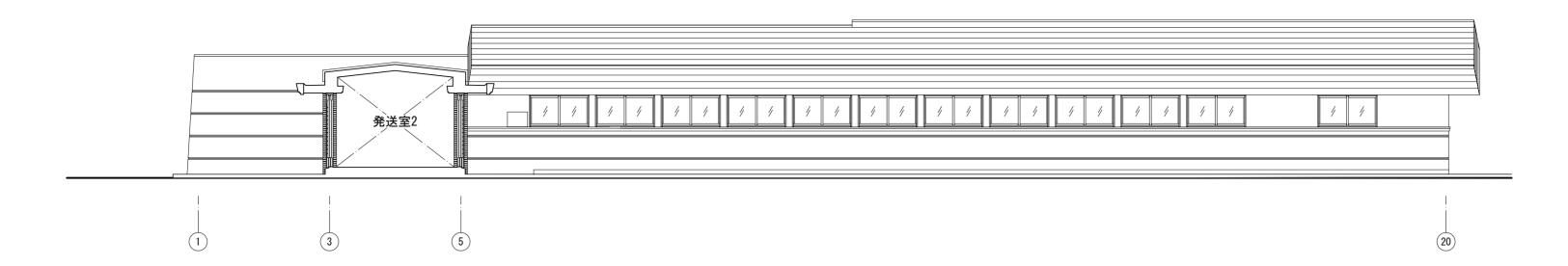
	婦人之友社社屋調査現況図面	Date.	2023.03.31		No. N 3	
I T'11	2•3階平面図	Scale.	1:100(A2)		No. U3	
drg.Title.	2-3陷十॥凶	● ● 協同組合 伝統技	支法研究会			



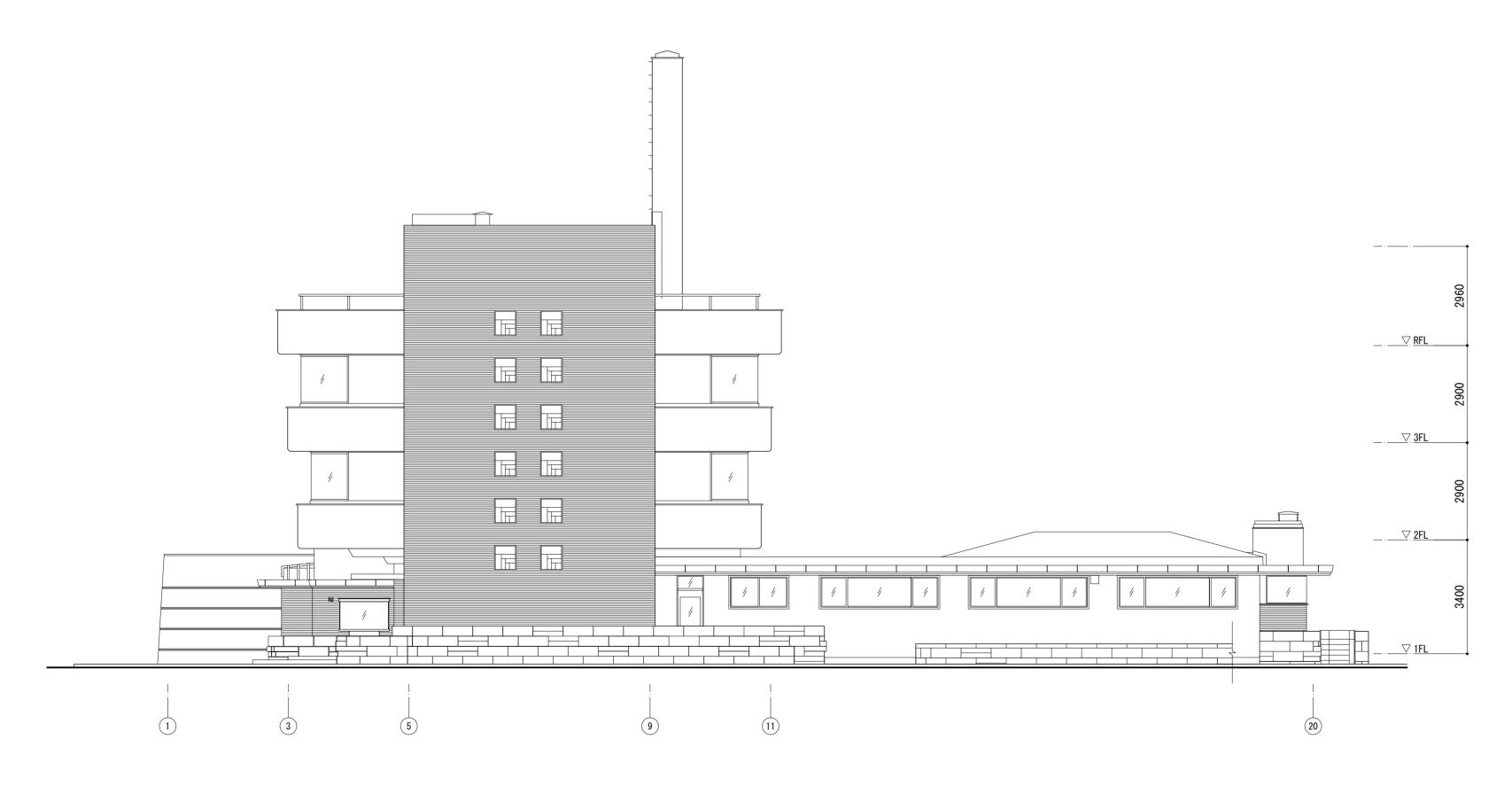




婦人之友社社屋調査現況図面	Date. 2023.03.31
drg.Title. 地階·塔屋·塔屋屋上平面図	Scale. 1:100(A2)
	● ● 協同組合 伝統技法研究会

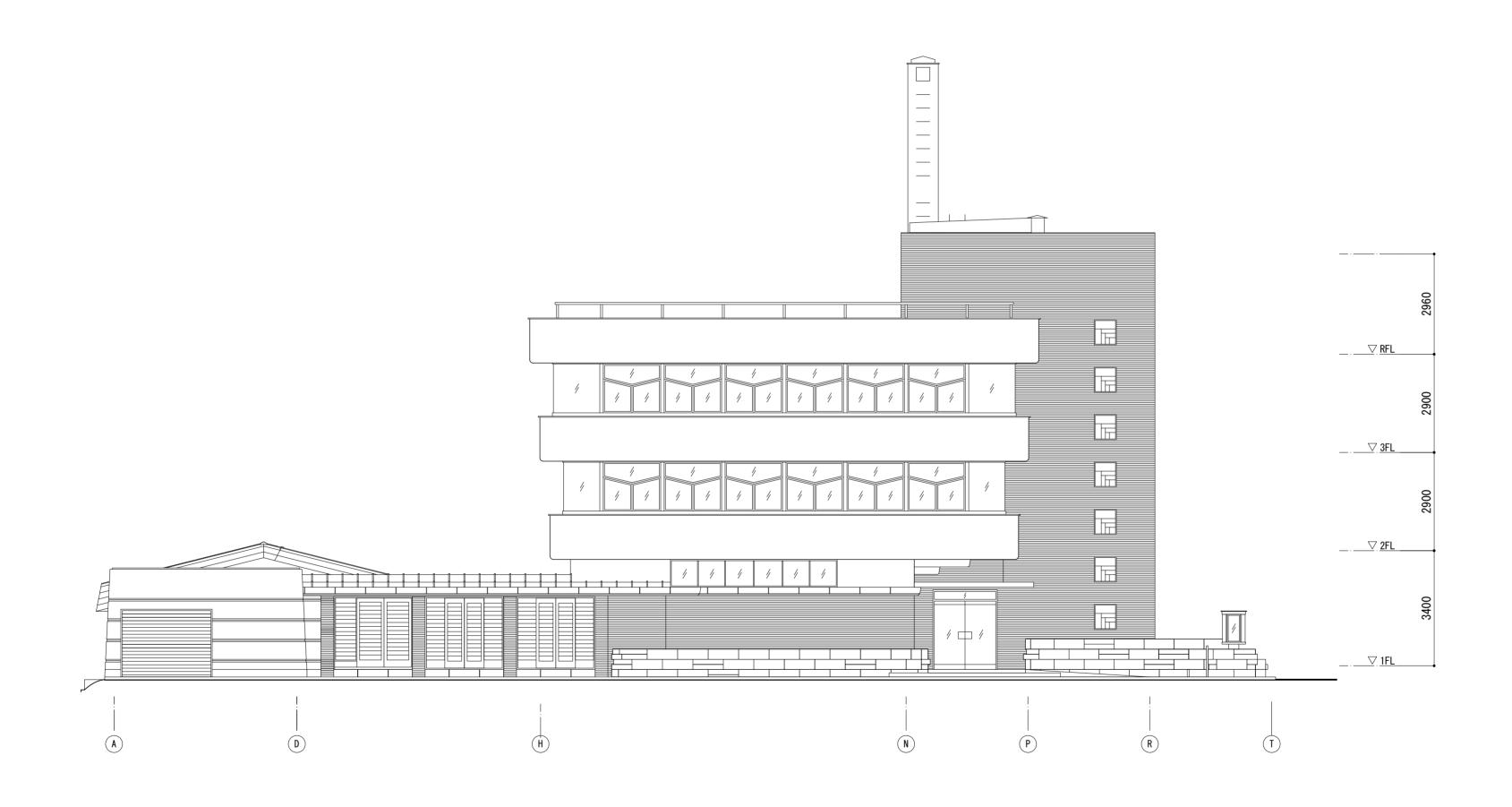


北立面図(中庭側)



北立面図

	婦人之友社社屋調査現況図面	Date.	2023.03.31		No. 06	
drg.Title.	北•北(中庭側)立面図	Scale.	1:100(A2)		Nº. UU	
arg. I itie.	礼·礼(中)阵侧/亚国区	• •	協同組合	組合 伝統技法研究		



東立面図

	婦人之友社社屋調査現況図面	Date.	2023.03.31		No. Λ7	
	事立西図	Scale.	1:100(A2)		NO. U	
drg.Title.	東立面図	● ● 協同組合 伝統技法研究会				